

科目名	解剖学 I Anatomy I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	前期
<p>【授業の学習内容】</p> <p>解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。解剖学 I では人体の構成、運動器系、循環器系の正常な状態の構造や特徴について学習する。人体の構成として細胞や各組織の特徴、運動器系では、骨模型を使用し、骨の位置・形状・関節、筋の起始・停止・支配神経・作用、循環器系では、心臓や血管の基本的な構造、血管の走行、リンパ器官について学んでいく。授業は ①過去の国試出題部位 ②解剖学に関連した科目を学ぶ際に必要となる知識 ③臨床において必要となる知識 この3つを軸に進めていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>正常な状態の身体の構造や特徴を説明できる。 《具体的な目標》</p> <p>①国家試験出題レベルの問題に答えることができる。 ②解剖学関連科目を学ぶ際に必要な知識を習得できる。 ③細胞や各組織の特徴について説明できる。 ④骨の位置、筋の付着部位・支配神経・作用を理解・暗記し、体表観察の基礎を習得できる。 ⑤循環器の構造や血管の走行を理解し、説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	解剖学の導入 人体の構成(細胞について、上皮組織)の構造・特徴を説明できる。
2回目	人体の構成(上皮組織、結合組織、神経組織)の構造・特徴を説明できる。
3回目	人体の構成(筋組織、骨組織)の構造・特徴を説明できる。
4回目	人体の構成(骨組織) 人体の区分と方向 関節の構造・特徴を説明できる。
5回目	関節の構造 脊柱(基本的な構造、頸椎)の構造・特徴を説明できる。
6回目	脊柱(胸椎、腰椎、仙椎)の構造・特徴を説明できる。
7回目	脊柱(まとめ) 胸郭の構造・特徴を説明できる。
8回目	上肢の骨格(鎖骨、肩甲骨)の構造・特徴を説明できる。
9回目	上肢の骨格(上腕骨)の構造・特徴を説明できる。
10回目	上肢の骨格(尺骨、橈骨、関節)の構造・特徴を説明できる。
11回目	上肢の骨格(手の骨、手の関節)の構造・特徴を説明できる。
12回目	下肢の骨格(寛骨、骨盤の構成)の構造・特徴を説明できる。
13回目	下肢の骨格(大腿骨、下肢の関節、膝蓋骨)の構造・特徴を説明できる。
14回目	下肢の骨格(脛骨、腓骨、下肢の関節)の構造・特徴を説明できる。
15回目	下肢の骨格(足の骨、下肢の関節)の構造・特徴を説明できる。
準備学習 時間 外学習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 授業の始めに前回の範囲の小テストを行いますので、講義の復習が必要になります。 骨格、筋などの構造をイメージできるよう模写し、覚えること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生 へのメッ セージ	
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>教科書 河野邦雄他著 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社 参考書 梅澤俊彦他著 人体の正常構造と機能 第3版 日本医事新報社 授業プリント(A3)を配布します。</p>	

科目名	解剖学 I Anatomy I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	前期
【授業の学習内容】							
<p>解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。解剖学 I では人体の構成、運動器系、循環器系の正常な状態の構造や特徴について学習する。人体の構成として細胞や各組織の特徴、運動器系では、骨模型を使用し、骨の位置・形状・関節、筋の起始・停止・支配神経・作用、循環器系では、心臓や血管の基本的な構造、血管の走行、リンパ器官について学んでいく。授業は ①過去の国試出題部位 ②解剖学に関連した科目を学ぶ際に必要となる知識 ③臨床において必要となる知識 この3つを軸に進めていく。</p>							
【到達目標】							
<p>正常な状態の身体の特徴を説明できる。 《具体的な目標》</p> <p>①国家試験出題レベルの問題に答えることができる。      ②解剖学関連科目を学ぶ際に必要な知識を習得できる。 ③細胞や各組織の特徴について説明できる。      ④骨の位置、筋の付着部位・支配神経・作用を理解・暗記し、体表観察の基礎を習得できる。 ⑤循環器の構造や血管の走行を理解し、説明できる。</p>							

授業計画・内容	
16回目	頭蓋骨(脳頭蓋について、新生児の頭蓋、前頭骨、頭頂骨、後頭骨)の構造・特徴を説明できる。
17回目	頭蓋骨(側頭骨、蝶形骨、篩骨)の構造・特徴を説明できる。
18回目	頭蓋骨(顔面頭蓋、顎関節)の構造・特徴を説明できる。
19回目	頭蓋骨(頭蓋底と脳神経)の構造・特徴を説明できる。
20回目	頭蓋骨(顔面部の特徴)の構造・特徴、筋の概要を説明できる。
21回目	体幹の筋(浅胸筋、深胸筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
22回目	体幹の筋(横隔膜、呼吸筋まとめ、腹部の筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
23回目	体幹の筋(腹部の筋、背筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
24回目	体幹の筋(背筋) 上肢の筋(上肢帯の筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
25回目	上肢の筋(肩関節の運動、上腕の筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
26回目	上肢の筋(前腕の筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
27回目	上肢の筋(前腕の筋、手の筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
28回目	下肢の筋(内寛骨筋、外寛骨筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
29回目	下肢の筋(大腿の筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
30回目	下肢の筋(大腿の筋、下腿の筋)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
準備学習 時間 外学習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 授業の始めに前回の範囲の小テストを行いますので、講義の復習が必要になります。 骨格、筋などの構造をイメージできるよう模写し、覚えること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生 へのメッ セージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>教科書 河野邦雄他著 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社 参考書 梅澤俊彦他著 人体の正常構造と機能 第3版 日本医事新報社 授業プリント(A3)を配布します。</p>	

科目名	解剖学 I Anatomy I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	前期
【授業の学習内容】							
<p>解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。解剖学 I では人体の構成、運動器系、循環器系の正常な状態の構造や特徴について学習する。人体の構成として細胞や各組織の特徴、運動器系では、骨模型を使用し、骨の位置・形状・関節、筋の起始・停止・支配神経・作用、循環器系では、心臓や血管の基本的な構造、血管の走行、リンパ器官について学んでいく。授業は ①過去の国試出題部位 ②解剖学に関連した科目を学ぶ際に必要となる知識 ③臨床において必要となる知識 この3つを軸に進めていく。</p>							
【到達目標】							
<p>正常な状態の身体の特徴を説明できる。 《具体的な目標》</p> <p>①国家試験出題レベルの問題に答えることができる。      ②解剖学関連科目を学ぶ際に必要な知識を習得できる。 ③細胞や各組織の特徴について説明できる。                ④骨の位置、筋の付着部位・支配神経・作用を理解・暗記し、体表観察の基礎を習得できる。 ⑤循環器の構造や血管の走行を理解し、説明できる。</p>							

授業計画・内容	
31回目	下肢の筋(下腿の筋、足の筋、局所解剖)の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
32回目	顔面部の筋、頸部の筋の起始・停止・支配神経・作用、特徴を説明できる。
33回目	循環器総論(体循環、肺循環) 心臓の位置・構造・特徴を説明できる。
34回目	心臓の位置・特徴を説明でき、構造を図示できる。
35回目	心臓(心膜・心臓壁・刺激伝導系) 動脈系(循環、大動脈)の構造・特徴を説明できる。
36回目	動脈系(大動脈)の流れ・特徴を説明できる。
37回目	動脈系(大動脈・下肢)の流れ・特徴を説明できる。
38回目	動脈系(上肢・頭頸部・胸壁・会陰部)の流れ・特徴を説明できる。
39回目	静脈系(上大静脈、下大静脈)の流れ・特徴を説明できる。
40回目	静脈系(門脈・上肢)の流れ・特徴を説明できる。
41回目	静脈系(上肢・下肢・頭頸部・胸壁)の流れ・特徴を説明できる。
42回目	静脈系(復習) 血管走行まとめ
43回目	胎児循環の流れ・特徴を説明できる。
44回目	リンパ系に属する器官の構造・特徴を説明できる。
45回目	前期のまとめ 試験の説明
準備学習 時間 外学習	<p>事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること</p> <p>時間外学習 授業の始めに前回の範囲の小テストを行いますので、講義の復習が必要になります。骨格、筋などの構造をイメージできるよう模写し、覚えること。</p>
評価方法	<p>成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。</p> <p>『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる</p>
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>教科書 河野邦雄他著 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社</p> <p>参考書 梅澤俊彦他著 人体の正常構造と機能 第3版 日本医事新報社</p> <p>授業プリント(A3)を配布します。</p>	